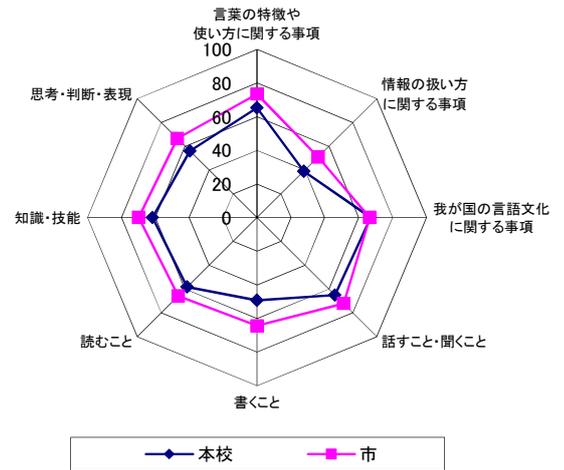


宇都宮市立晁宝小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.3	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	39.0	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	67.1	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	65.0	72.3	73.7
	書くこと	49.2	64.3	66.6
	読むこと	58.3	65.8	64.9
観点別	知識・技能	61.7	69.8	70.8
	思考・判断・表現	56.0	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

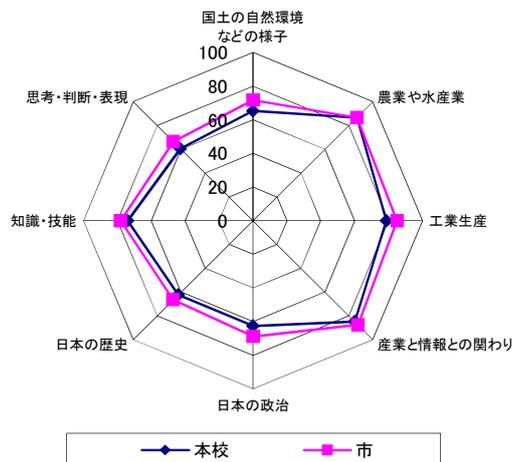
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>○敬語について理解し、正しく使えるかについての問題は、市の平均正答率より高かった。</p> <p>●漢字を書く問題は、市の平均正答率を10ポイント以上下回った。</p> <p>●文章を書く問題で、二つの段落に分けて書くという条件を満たしている解答が全体の50%であった。</p>	<p>・新出漢字の字形に注意しながら、繰り返し練習して漢字を覚えることを、引き続き朝の学習や家庭学習で取り組む。また、文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら漢字を正しく使ったり、学習した漢字を意識して使ったりすることが習慣付けられるよう全ての教科の授業において指導していく。</p> <p>・段落については、作文指導の際に段落の役割を理解させたり、原稿用紙の使い方について確認したりして、基礎の定着に努める。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く問題の平均正答率は、市の平均を14.7ポイント下回った。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題の平均正答率は、市の平均を9.2ポイント下回った。</p>	<p>・文章を書く問題で示されている複数の条件を見落としている解答が多かった。作文指導の際に、字数や段落、内容など条件を複数示し、情報を整理しながら文章を書くように指導する。</p> <p>・授業の中で、段落の要旨を捉え、文章の内容を要約する活動を取り入れ、情報を整理する力の育成に努める。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、ほぼ市と同じである。</p> <p>○和語、漢語、外来語について正しく理解していた。</p>	<p>・文章を読む際には、使われている言葉の意味や由来について確認したり、ICTや国語辞典、漢字辞典などを活用し調べたりする活動を取り入れ、言葉に対して興味、関心を持って学習できるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>●自分が聞こうとする意図に応じて、話の要旨を捉える問題では、正答率が34.1%であった。</p>	<p>・相手の話を聞く際に視点を決めて聞いたり、話の内容を要約したりする活動を取り入れ、正確に理解し整理できるように指導する。</p> <p>・意見や提案など自分の考えを話したり、必要なことを聞き取ったりする活動や自分の立場を明らかにして考えを伝え合う活動を、各教科の授業において発達段階に応じた言語活動となるよう引き続き指導していく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>●書くことに関する全ての問題の平均正答率が、市の平均を下回った。</p> <p>●文章を書く問題の無回答率が20%を超えていた。</p>	<p>・文章を書く問題で示されている複数の条件を見落としている解答が多かった。情報の扱い方に関する事項の指導と併せて、字数や段落、内容など複数の条件を意識しながら文章を書くことに慣れさせる。</p> <p>・文章を視写したり、決められた時間内に文章を書いたりする活動を繰り返し行い、長い文章を書くことへの抵抗感が減るように促す。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>○物語を読んでまとめた意見を共有し、自分の考えを広げることができていた。</p> <p>●読むことに関する全ての問題の平均正答率が、市の平均を下回った。</p> <p>●説明文の要旨を捉える問題では、正答率が28%であった。</p>	<p>・説明文を読み、段落ごとに要旨を捉え、文章全体の構成を理解できるように、要約の活動を繰り返し行う。</p> <p>・接続する言葉や繰り返し用いられている言葉に着目し、段落どうしの関係を正確に理解できるように指導する。</p>

宇都宮市立晁宝小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	65.3	71.6	69.6
	農業や水産業	86.7	86.7	83.7
	工業生産	78.7	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	84.9	87.7	77.4
	日本の政治	62.7	68.9	71.7
	日本の歴史	62.3	66.7	66.3
観点別	知識・技能	74.0	78.0	76.7
	思考・判断・表現	60.5	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

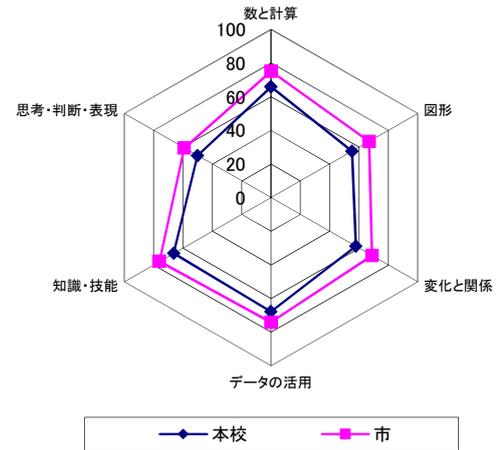
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は市の平均を下回った。 ●オーストラリアの位置や国旗について問う問題では、正答率は71.1%と市を10ポイント下回った。 ●日本の主な湖を問う問題では、正答率は66.3%と市を7.7ポイント下回った。	・国名や海洋名、周辺の国や日本の領土の学習では、用語を押さえるだけでなく、地図帳や資料集を積極的に活用していく。 ・他の教科の学習等で国名や日本の地名が出てきたときには、場所や国旗等を確認し、地理について理解を深めていく。
農業や水産業	平均正答率はほぼ市の平均と同じである。 ○米の生産が盛んな地域について問う問題では、正答率は92.8%と市を2.3ポイント上回った。 ●水産物の流通の工夫について、資料をもとに判断する問題では、正答率は85.5%で市を2.7ポイント下回った。	・水産物の流通に関する問題に課題が見られた。流通にかかわる業者と消費者の両方の視点から仕組みの利点について考えていく。
工業生産	平均正答率は市の平均を下回った。 ○工業製品の分類を問う問題では、正答率は92.8%で、市を0.6ポイント上回った。 ●日本の工業の特色について問う問題では、正答率は56.6%と市を16.8ポイント下回っている。	・資料一つ一つの丁寧な読み取りや2つの資料を結び付けて、そこから見えてくるものについてじっくり考えさせていくことで、資料活用の技術を高めていく。
産業と情報との関わり	平均正答率は市の平均を下回った。 ○さまざまなメディアの特徴について問う問題では、正答率は96.4%と市を0.1ポイント上回った。 ●情報の発信と受信の注意点について考える問題では、正答率は73.5%と市を5.6ポイント下回った。	・情報化がますます進展していく中で、それぞれのメディアの特徴を捉えながら、それぞれの良さや課題に気付かせるような指導を今後も継続していく。 ・インターネットの正しい利用の仕方について課題が見られた。社会科の授業でもインターネットの正しい使い方について確認し、さらに道徳の時間等に情報モラルの学習を行い、意識付けを行っていく。
日本の政治	平均正答率は市の平均を下回った。 ●天皇の地位について問う問題では、正答率は54.2%と市を8.8ポイント下回った。 ●内閣の働きについて問う問題では、正答率は32.5%と市を9.9ポイント下回った。	・天皇の権限や政治の仕組みについては自分たちの生活から少し距離があると感じているため、実感を伴った理解が難しい。そこで、今後も政治の仕組みが自分たちの生活にどのような影響を与えているのかについて、ニュース等で話題になっていることや具体的な事例から考え、理解を深めていく。
日本の歴史	平均正答率は市の平均を下回った。 ○江戸幕府の鎖国の窓口について問う問題では、正答率は71.1%と市を7.2ポイント上回った。 ●源氏物語について問う問題では、正答率は68.7%と市を8.5ポイント下回った。 ●源平の戦いの理解のもとに資料を判断する問題では、正答率は47%と市を8.7ポイント下回った。	・歴史用語を正しく身に付けるために、もう一度復習したり、練習問題を解いたりすることを通して、定着を図るようにする。 ・平安時代の理解について課題が見られた。時代の流れを意識しながら、歴史上の人物が行ったこと、出来事の詳細などについてしっかり確認をして、理解を深めていく。

宇都宮市立晁宝小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	65.9	75.1	75.8
	図形	55.2	66.8	68.3
	変化と関係	57.8	68.8	65.0
	データの活用	67.8	74.1	63.6
観点別	知識・技能	66.3	76.1	75.8
	思考・判断・表現	50.0	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

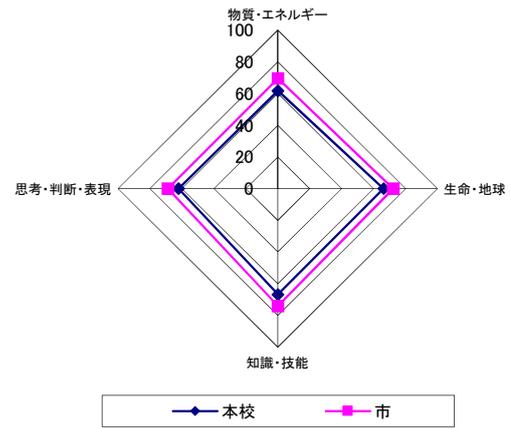
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>●分数の計算では、異分母分数の加法において、通分を用いた計算問題の正答率が、市の平均を19.4ポイント下回った。</p> <p>●分数の除法における逆数を用いた計算問題の正答率が、市の平均を16.8ポイント下回った。</p>	<p>・正しく計算できるようにするために、通分や逆数の意味について、授業の中で丁寧に説明し、一人一人の学習状況を把握し指導するため、習熟度別学習や少人数学習などを、計算分野において積極的に活用しながら指導していく。</p> <p>・家庭学習や朝の学習などに繰り返し練習問題に取り組みさせる。</p>
図形	<p>平均正答率は市の平均を下回った。</p> <p>○合同な三角形を作図する問題は、90%を超え市の平均を2.0ポイント上回った。</p> <p>●底面積と高さから角柱の体積を求める問題は、市の平均を28.2ポイント下回った。</p>	<p>・作図において、具体的な操作活動を取り入れた学習は効果が高いため、定規やコンパスなどの器具の操作も併せて、繰り返し指導を行い、定着を図る。</p> <p>●底面積の公式について再度確認し、底面積と高さの位置関係を具体物を用いて視覚的に捉えさせ、どんな角柱や円柱も底面積×高さで求められることを繰り返し学習させる。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>●速さと時間と距離の関係を理解し、速さと距離から時間を求める問題は、市の平均を5.9ポイント下回った。</p> <p>●割合の求め方を理解し、基準量や比較量を求める問題は、市の平均を21.2ポイント下回った。</p>	<p>・割合や速さなど単位量当たりの大きさの学習では、日常生活に関連が深いため、用語の意味を正しく理解し、基準量と比較量の関係性、速さと時間と距離との関係性について、図や数直線を用いて丁寧に指導し、日常生活の場面などを題材とした簡単な例とともに課題が解決できるよう指導していく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は市の平均を下回った。</p> <p>○円グラフの読み取りの問題の正答率は、90%を越え、市の平均を3.8ポイント上回った。</p> <p>●平均から全体の量を推測する問題は、市の平均を17.5ポイント下回った。</p>	<p>・平均から全体を推察する学習では、身近な教材に着目させ、必要性を感じながら統計的な問題解決の方法を主体的に学んでいけるように課題の設定を工夫し、指導していく。</p>

宇都宮市立晁宝小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	61.7	69.5	65.2
	生命・地球	66.2	72.3	70.1
観点別	知識・技能	66.8	74.0	70.7
	思考・判断・表現	62.1	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>○「物のとけ方」のうち、水にとけた食塩とミョウバンを取り出す方法についての問題では、市の平均より2.3ポイント高い結果となった。</p> <p>●「ふりこのきまり」のうち、ふりこの周期を求める問題では、市の平均正答率より15.6ポイント低い結果となった。</p>	<p>● 課題を基に予想し、実験や観察の方法を考える活動を重視し、自分で課題を追求できるように助言しながら問題解決の力を伸ばしていく。</p> <p>● 実験や観察の方法や必要な道具についても児童に考えさせるとともに、使い方や注意点を確認する。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>○「月と太陽」のうち、月の形を推測する問題では、市の平均より6.5ポイント高い結果となった。</p> <p>●「生物とかんきょう」のうち、自分で養分をつくらることができる生物についての問題では、市の平均正答率より9.4ポイント低い結果となった。</p>	<p>● 実験や観察の結果から考察する活動の時間を確保するとともに、映像資料等を効果的に活用し、科学的な思考力を高めていく。</p> <p>● 単元のまとめでは、学習した内容をしっかり確認し、復習問題などを通して基礎的な内容の定着を図る。</p>

宇都宮市立晁宝小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な学習習慣の定着のための指導の徹底 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の実践に関する研究 ○基礎・基本の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習用具の確実な準備や学習のきまり、発表の仕方、話を聞く態度などの学習態度や学習技能を育てる指導を学校全体で取り組んでいる。 ○主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の改善を学校全体で研究している。 ○単元のプレテストやまとめテストで児童一人一人の実態を把握し、個に応じた支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○6学年のアンケート結果「授業の始まりには席についている。」「授業に必要な学習用具は必ず持ってきている。」の設問での肯定的回答はいずれも9割を下回っており、宇都宮市の肯定割合より5ポイント程度下回っている。学習用具のきまりや、学習のきまりの掲示物等、全職員で共通理解しながら引き続き指導をしていく必要がある。 ○「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「学習していて、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」の設問では、いずれも宇都宮市の肯定割合を5ポイント程度上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

○学年でパワーアップシートや宮っ子ステップアップシート、AIドリル等を授業や朝の学習に位置づけ、復習を習慣化し、基礎・基本の定着に務める。また、学校だより、学年だより等を通じて、家庭への啓発に努めながら家庭学習を推進していく。

○当該学年だけでなく、前学年のAIドリルに取り組むなど、繰り返し学習することで基礎的な力を確実に身に付けるようにする。